

仕訳問題 その5 (問題)

次の各取引について仕訳をしなさい。ただし、勘定科目は次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

現 金	受 託 買 付	仮 払 消 費 税	火 災 損 失	売 買 目 的 有 価 証 券
諸 資 産	別 途 積 立 金	未 決 算	備 品	有 価 証 券 売 却 益
保 険 差 益	そ の 他 資 本 剰 余 金	租 税 公 課	仮 受 消 費 税	未 払 消 費 税
の れ ん	未 払 配 当 金	諸 負 債	資 本 金	固 定 資 産 売 却 益
還 付 法 人 税 等	繰 越 利 益 剰 余 金	備 品 減 価 償 却 累 計 額	当 座 預 金	社 債 償 還 益
未 収 金	開 業 費	社 債 利 息	利 益 準 備 金	有 価 証 券 売 却 損
社 債 償 還 損	減 価 償 却 費	社 債	固 定 資 産 売 却 損	開 業 費 償 却

1. 平和商店は、決算にあたり、商品売買取引に係る消費税の納付額を計算し、これを確定した。なお、消費税の仮払分は 550,000 円、仮受分は 800,000 円であり、当社は消費税の会計処理として税込方式を採用している。
2. 氷川商店（年 1 回 3 月末日決算）は、平成 25 年 3 月 31 日に額面総額 3,000,000 円の社債を額面@100 円について @99 円で買入償還し、現金で支払った。なお、この社債は、平成 22 年 9 月 1 日に、額面@100 円につき@97 円で発行したものである。なお、当該社債の償還期間は 4 年であり、同日の決算に際して、毎期末に行われている社債の評価替えを償却原価法（定額法）により行った。
3. 小竹商店は株主総会において、以下のように繰越利益剰余金の処分が行われた。なお、前年度末における資本金は 5,000,000 円、資本準備金は 700,000 円、利益準備金は 500,000 円であった。

配当金…1,200,000 円

別途積立金…600,000 円

利益準備金…各自算定
4. 売買目的で取得していた株式のうち 5,000 株を、@432 円で売却し、代金は当座預金口座に振り込まれた。第 1 回目（4,000 株、取得価額@455 円）および第 2 回目（6,000 株、取得価額@420 円）は、前期中に取得したものであり、前期末に@440 円で評価替えされ、当期首に取得価額に振り戻しておく方法（洗替法）により処理されている。第 3 回目（5,000 株、取得価額@422 円）は、当期中に取得したものである。株式の払出単価の計算は移動平均法によっている。
5. 千川商店は、取得原価 2,000,000 円、期首減価償却累計額 875,000 円の備品を期首から半年が経過した時点で下取り価額 1,000,000 円で下取りに出し、新しい備品 2,500,000 円を購入した。新備品の購入価額と旧備品の下取り価額との差額は支払った。なお、旧備品については、償却率 25%の定率法によって算定した半年分の減価償却費を下取り時において計上すること。
6. 要町商店は、かねて護国寺商店から買付を委託されていた商品 450,000 円を買い付け、代金は小切手を振り出して支払った。なお、引取運賃 10,000 円は現金で支払った。
7. 江戸川商店は、決算日（年 1 回：3 月 31 日）において、繰延資産の償却を行った。繰延資産は、当期首に支払った開業に係る費用総額¥600,000 である。償却方法は会社法に規定されている最長期間による均等償却とすること。
8. 飯田株式会社は、市ヶ谷株式会社を吸収合併し、株式 500 株（1 株の発行価額 50,000 円）を交付した。なお、合併によって引き継いだ野坂株式会社の諸資産は 50,000,000 円、諸負債は 30,000,000 円であった。また、交付した株式の発行価額のうち、資本金に組み入れる額は 1 株当たり 30,000 円とする。
9. 麴町商店は、当期首において建物（取得原価：5,000,000 円、期首時点における減価償却累計額：1,800,000 円）が火災により焼失し、この建物は保険金額 3,500,000 円の火災保険に加入していたので、ただちに保険会社に保険金の支払いを請求していたが、本日、満額 3,500,000 円を支払う旨の通知を受けた。
10. 永田商店は、過年度分の法人税等について訂正を受け、税金の還付額¥100,000 が当座預金に振り込まれた。